

簿記初級2日目

- 日々の帳簿記入
- 商品売買
- 現金、手形

複式簿記の特徴

今回皆さんが勉強するのは「複式簿記」

使った金額のみずらっと書いていくお小遣い帳は「単式簿記」
⇒結果だけの記録。* 食品 100 みたいな書き方になる。

複式簿記の特徴⇒間違えにくい

一つの取引がもつ2つの面に着目して記録していくので、損益計算書と貸借対照表を作りやすい

⇒簡単にいうと、原因と結果の両方を書く。* 仕入 100/現金 100

簿記上の取引とは

簡単にいえば、お金が動いたり、価値あるものの金額が変わったりすること。
難しく言うと、資産、負債、純資産（資本）、収益、費用に増減があること。

簿記上の取引にならないもの

- ・ たんなる賃貸借契約⇒お金が動いてない

簿記上の取引になるもの

- ・ 商品の売買（商品が増えて現金が減った）
- ・ 建物の消失（建物の価値が減った）

問題

簿記上の取引に当たらないものはどれですか？
企業の活動だけ取引ではないものが3こあります！

商品の販売 現金の盗難、商品の売買契約の締結、パソコンの購入
売掛金の回収、銀行から借り入れ、店舗の賃貸借契約の締結、給料支払い
商品の購入、利息の受け取り、借入金の返済、取引先との商談

帳簿の名前を覚えよう



昔は何冊もの帳簿に記録していたが、今は会計ソフトで入力すれば自動的に転記されていくので入力は1回で済みます。

大体出てくるのはこんな帳簿たち。

- ・ 総勘定元帳
- ・ 仕分日計帳
- ・ 各勘定科目（売上とか現金とか）の帳簿

文具屋さんで探してみてくださいね！！！！

勘定科目と貸方・借方を覚える

勘定科目は、覚えておいたほうが良いですが試験問題に書いてあるのでそこまで気合を入れて覚えなくてもいいです。

一方、貸方（かしかた）と借方（かりかた）は覚える必要があります。

複式簿記は、一回の取引を二か所にかいて間違いを防止する仕組みだということをまず思い出してください。

そして、損益計算書にでてくる科目は、費用と収益

貸借対照表にでてくる科目は資産、負債、純資産（資本）

なので、各勘定科目は損益計算書に出てくる科目か、貸借対照表にでてくる科目かかならずどちらかに該当します。

貸方と借方

かりかた と かしかた

「り」と「し」の払う方向で覚えるとよいです。

貸方⇒し⇒右側

借方⇒り⇒左側

貸借対照表と損益計算書を思い出せ！！！！

それぞれの基本ポジションが貸借対照表と損益計算書にある！

総勘定元帳で書くときは、「金額が増える話」だったら元ポジションの位置に書いていくだけだ！

片方がわかれば、埋めていくだけなので、まず取引の片方だけでもいいからわかるようになってしまえばこっちのものだ！！！！

貸借対照表を作ってみる

この日の
時点の話

貸借対照表
令和5年3月31日

資産 = 負債 + 純資産

資産の部	負債の部
企業の経営活動に必要な お金やその他金額のつく もの	借りてるお金 借入金
現金、建物、備品、車両 運搬具（車）、土地、貸 付金（他人に貸してるお 金）	純資産の部 資産と負債の差額 = 資本金 営業を始めるときの資金 + 営業活動で出た儲け
合計金額は、左右で一致！！！！	

損益計算書を作ってみる

この期間の話

損益計算書
自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

収益 - 費用 = 当期純利益

費用の部	収益の部
支払ったお金	受け取ったお金
差額で出てくる儲けたお金	
左右は必ず一致！！！！	

実はこの2つは共通
「当期純利益」
つまり、今期にもうかったお金のこと。

元ポジション??
言っている意味が分からない
と思うので先に話を進め
ます。
あとから戻ってください。

日々の取引

現金シリーズ行ってみよう！

現金の増減 * 現金が増える場合は左に書く！

現金が増えるときの書き方

現金 10000 / <増えた原因> 10000

現金が減るときの書き方

<減った原因> 10000 / 現金 10000

例えば！！！！

手数料300円を現金で受け取った ⇒ 現金 300/受取手数料 300

給料400円を現金で払った ⇒ 給料 400/現金 400

現金が増える場合は？

左側に書く！

とにかく左だ！

実際に記録をつけてみよう！（仕訳）

- ・ 現金 1000円を元入れして、営業を開始した。

現金 1000 / 資本金 1000

現金が増えて、資本金が増えた。

貸借対照表を作ってみる

この日の
時点の話

貸借対照表
令和5年3月31日

資産 = 負債 + 純資産

資産の部	負債の部
企業の経営活動に必要な お金やその他金額のつく もの	借りてるお金
現金、建物、備品、車両 運搬具（車）、土地、貸 付金（他人に貸してるお 金）	借入金
	純資産の部
	資産と負債の差額 = 資本金 営業を始めるときの資金 + 営業活動で出た儲け
合計金額は、左右で一致！！！！	

現金 100円を銀行から借りた。

⇒現金 100/借入金 100

貸借対照表を作ってみる

この日の
時点の話

貸借対照表
令和5年3月31日

資産 = 負債 + 純資産

資産の部	負債の部
企業の経営活動に必要な お金やその他金額のつく もの	借りてるお金 借入金
現金、建物、備品、車両 運搬具（車）、土地、貸 付金（他人に貸してるお 金）	純資産の部 資産と負債の差額 = 資本金 営業を始めたときの資金 + 営業活動で出た儲け

合計金額は、左右で一致！！！！

手数料300円を現金で受け取った ⇒ 現金 300/受取手数料 300

給料400円を現金で払った ⇒ 給料 400/現金 400

電気代700円を現金で払った ⇒ 水道光熱費 700/現金 700

備品200円を現金で購入した ⇒ 備品 200/現金 200

借入金のうち100円を現金で返済した ⇒ 借入金 100/現金 100

借入金のうち100円を利息10円とともに現金で返済した ⇒ 借入金 100/現金 110

支払利息 10

預金が増える場合は？⇒現金と同じ「資産」

左側に書く！

やっぱり左だ！

車両運搬具が増える場合は？

これも左側に書く！

資産が増える話は

左だ！

商品売買

仕入て売ってみよう！！！！

仕入を考えるとときも現金で考える

現金が減る話は右側に現金が来る！！

仕入 100 / **現金 100**

現金で売り上げた（現金増える）

現金 100 / 売上 100

掛けで売り上げた

売掛金 100 / 売上 100

⇒ 掛け売りって何？「後で支払うね」のこと。

現金を後ではらうパターン

現金で即支払うパターン以外に「売掛金」として処理する方法があります。

売掛金は月末などにまとめて一斉に決済することが多いです。

というのも、同じ会社間で毎日数回取引していたら掛け売りにしないとお互い事務の手間が増えて大変だからです。

ただ、売掛金を使って商売をするのは、ある程度信用がある会社同士じゃないとできないことです。

他にも、クレジット取引（後日決済、クレジットカードを使った手数料が後日引かれて請求されるパターン）もあります。

仕入れを返品 売上を返品する場合

反対の仕訳になります。特に覚えなくても「逆」とだけ認識したらオッケーです。

仕入れた場合

仕入 100 / **現金 100**

返品した場合

現金 100 / 仕入 100

* 買掛金（代金を後で支払うパターン）の場合は、現金の位置に「買掛金」がきます。

前払金、前受金

商品売買の時に高額だと「手付金」という名前であらかじめ支払うお金＝前払金
前払いを受けたら、「前受金」として処理する。

実際に商品を渡したり、もらったりするときに、元の値段から差し引いて計算する。

なので、例えば50万円を売上たうちの、1万円を前受金、49万円を後日決済にした場合

もらった当日	現金	10000	／	前受金	10000
商品お渡し日	前受金	10000	／	売上	500000
	現金	490000			

手形

受取手形と支払手形

現実ほとんど使わないけど試験問題では出てくる。

要は、「後日支払います」というもので、現金や預金のように価値を持っているもの。

受取手形⇒現金とか預金などと同じ「資産」

支払手形⇒借金みたいなものなので「負債」

今日の部分が一番難しいと思うので
しっかり復習してください！

明日は、ついに集計して貸借対照表と損益計算書を作るところまでしてみたいと思います。